

ツバメ



(撮影：桐原佳介)

上鴨部にて

■春告げ鳥

鳴き声で春を告げる鳥がウグイスだとしたら、姿で春を告げるのがツバメたち。両方とも春告げ鳥と呼ばれています。冬の間、東南アジアなどで過ごしていた彼らは、小さな体で海を渡り日本にやってきます。南部町では、イワツバメ、ツバメ、コシアカツバメの3種類のツバメが毎年子育てをしています。町に到着する順番も、だいたいこの並びの通りです。私は、町内でツバメを最初に見つけた日を初認日と呼び、毎年気にして観察しています。平成20年は3月24日、平成21年は3月10日、平成22年は3月13日と、3月の第2週から3週に到着日が集中しているようです。

■南部町でもツバメ激減

私の個人的な印象ですが、私たち家族が南部町に引っ越して来た平成15年から昨年までの8年間の様子を振り返ってみると、3種類のツバメ全てが減っていると思われまます。使用中の巣の数が少ないことや、巣そのものが減少したこと、定期的に歩いている観察コースでも飛翔している個体が少ないことなどがその理由

です。実際に町民の方から、蔵にツバメがなくなったとか、法勝寺の旧街道では、どの家にもツバメが巣をかけていたのに、今では殆ど見かけなくなつたなど、様々なお声を聞きます。原因は分かりませんが、たった8年でここまでいなくなるのだろうか、と思うくらい身近な鳥が姿を減らしています。今後、ちゃんとした町内一斉調査をすべきですが、なかなか実現できずじまいです。

■ツバメ情報はこちらへ

現在、日本全国のツバメ情報を取りまとめているサイトがあります。「ツバメかんさつ全国ネットワーク」です。NPO法人バードリサーチが運営しています。インターネットを使える環境をお持ちの方は、「今年初めてうちの軒先にツバメが来た日」を提供して頂けると貴重な情報の一つとなります。身近な生き物たちが、気付いたら絶滅危惧種になっていたということがないよう願うばかりです。今年も彼らの到着を楽しみに待ちたいと思います。

自然観察指導員 桐原真希